

学園点描

運動会練習が始まりました。楽しみにしつつ、上級生の本気に驚く日々が始まっています。

《H学園》

NO.5

R7. 5. 8

担当：校長

5月7日（水）は、ゴールデンウィーク明けの土砂降りの朝となり、気分的に登校も大変だったことと思います。その中でカラーコーンの位置を直していたところ、保護者の方から「マンホールのふたが浮き上がっている」と知らせていただきました。お車に傷もついており、大変申し訳なく思っております。原因は大雨による排水機能の限界と考えられ、市教育委員会にも連絡し対応を依頼しました。ご連絡とご協力に感謝申し上げます。

落選した価値

5月2日（金）桜萩会総会（生徒総会）が5.6時間目を使って開催されました。

U・A生徒会長が自己紹介に続いて、施政方針演説を話します。その冒頭で、「いじめのない学校にしよう」と5年生以上の参加者の児童生徒に呼びかけました。“正しさ”をみんなの前で言うことは思った以上に大変です。中には少し照れくさそうにしている子や、「今さら」と感じた様子の生徒もいたかもしれません。けれど、体育館には次第に拍手が広がりました。



生徒が自らの生活を見直し改善する、その活動の中心となるのが生徒会です。保護者の皆さんは、今現在、お子さんが何の生徒会の専門委員になっているか知っていますか？仕事の内容について是非、聞いてみてください。専門委員会に所属していなくても、学級の教科係にはなっていると思います。学校は集団生活の場です。一人ひとりに何らかの役割を担って貰わなくては、学校生活は成り立たないように出来ているのです。

わたしの事を言うのはちょっと恥ずかしいのですが、わたしは中学校のとき、生徒会長に立候補して見事落選したんですね。生徒会の役員になると、部活の時間にも話し合いをすることがあります。それでもなろうと思うにはそれなりの理由があったのです。

無事に桜萩会総会が終わり、最後に「校長の講評」を司会の生徒から求められました。そこで、自分が生徒会長に立候補し、落選したことを話しました。

わたしの中学校時代するとき、“校内暴力”なんていう言葉が流行って、学校は荒れていました。力が強く威張っている生徒が上を向いて歩き、“正しさや真面目さ”を言う生徒は下を向く。こんな学校っておかしい、そう思って当時は立候補したのです。もう遠い昔の話です。

今まで落選したことを誰かに言う度に、笑われてきました。でも、当時の自分は、真面目に母校を愛し、考えていたわけで、落選したショックは相当でしたね。

H学園の桜萩会総会は執行部や専門委員長がしっかり準備してくれたおかげで立派な会になりました。最後に講評の中でひとつの「問い」を5年生から9年生に出しました。

——「自分が“自分らしく”いられる学校って、どうしたらつくれるんだろう？」

周りの目を気にせず、好きなことに挑戦できる場所。悔しいときには思いきり泣けて、嬉しいときには一緒に笑い合える友がいる場所。そんな学校って、すごく素敵だと思いませんか？——

その問いに、どの子もふざけることなく、真剣なまなざしで耳を傾けてくれました。落選という自慢できない経験に価値が宿った瞬間だったかもしれません。

お蔭様で、わたしは選挙落選の後も、非行やぐれることはありませんでした。

落選が決まった日、生徒指導の先生であり、わたしの部活（テニス部）の顧問でもある先生が、わたしを職員室に呼んでこう言うんです。

「残念だったな。でも、うちの部にとってはよかったよ」って。

わたし、この言葉で中学時代を乗り越えました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

